

【Q】80代男性です。

20年前に心筋梗塞を患い、心不全治療薬、降圧薬、高脂血症治療薬、抗血小板薬、抗凝固薬、高尿酸血症治療薬などを内服しています。3年前より早朝起床後から頭がもやもやして気持ちが悪く、食事でも進まず、お昼ごろまで起きられませんでした。午後になれば徐々に良くなります。脳磁気共鳴画像装置(MRI)検査で多少の脳梗塞があるそうです。今後どのようなしたらよいのかアドバ

心筋梗塞後に不調



柴 信行
しば のぶゆき

イスを頂きたい。
【A】心臓の表面には、心臓に栄養や酸素を供給する冠状動脈があります(図)。この動脈が詰まって(閉塞)血液が不足し、心筋に強い障害(壊死)が起こる病気が心筋梗塞です。
男性では60代、女性では70代に発症することが多く、高血圧症・糖尿病・喫煙・高脂血症などが危険因子として知られています。急性心筋梗塞は重症の病気で、入院後の死亡率は7~9%と報告されています。
慢性期の治療でまず重

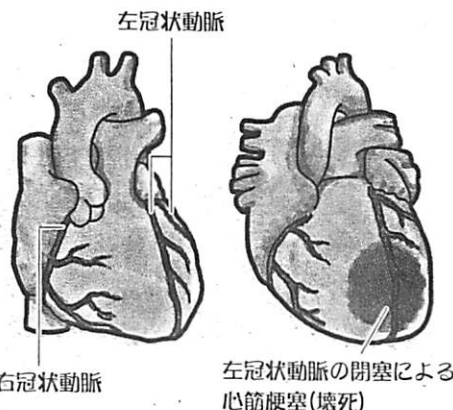
要なのは、心不全の予防と治療です。心不全は心臓のポンプ機能が低下し臓器が必要とする血液を送り出せない状態で、体のいろんな場所にむくみが起こります。

この方は抗凝固薬が投与されており心房細動の合併があると思われるます。心房細動は80歳以上の日本人の2~4%が罹患しており、脳梗塞の原因になるだけでなく心不全が悪化しやすくなります。また、心筋梗塞後の慢性期には冠状動脈の動脈硬化が進行して狭心症や心筋梗塞が再発することがあります。

今回ご相談の方に最初

国際医療福祉大学病院(那須塩原市) 副院長。日本循環器学会循環器専門医。東北大学。56歳。

心不全や不整脈の検査を



イラスト/松本成貴

SHIMOTSUKE GRAPHICS

にお勧めすることは、冠状動脈や心不全の状態について専門医で検査をすることです。また、心筋梗塞後には心室頻拍・心室細動などの命に関わる危険な不整脈が多く発生します。不整脈に関する精査も必要です。

最後に、心筋梗塞や心不全の患者さんではうつ病の合併が多く、寿命を短くするリスクとして知られています。(終わり)